

江戸川区 中小企業の景況

令和3年1月～令和3年3月期

調査対象 製造業 154社 小売業 72社
サービス業 57社 建設業 43社

調査方法 面接聴取法

調査機関 (一社) 東京都信用金庫協会

分析作成 (株)サーベイリサーチセンター

本概要版は、令和3年3月上旬に調べた景気動向と、これから先の3か月間(令和3年4～6月期)をまとめたものです。
なお、業績等についてはDI値を中心に分析しています。

※ D. I (Diffusion Indexの略)

D. I (ディーアイ) は、増加(又は「上昇」「楽」など)したと答えた企業割合から、減少(又は「下降」「苦しい」など)したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

	大きく上昇	上昇	やや上昇	横ばい	やや下降	下降	大きく下降
	好調 ←			普通	→ 不調		
製造業	20以上	19～10	9～0	-1～-10	-11～-20	-21～-30	-31以下
小売業	10以上	9～0	-1～-10	-11～-20	-21～-30	-31～-40	-41以下
サービス業	15以上	14～5	4～-5	-6～-15	-16～-25	-26～-35	-36以下
建設業	20以上	19～10	9～0	-1～-10	-11～-20	-21～-30	-31以下

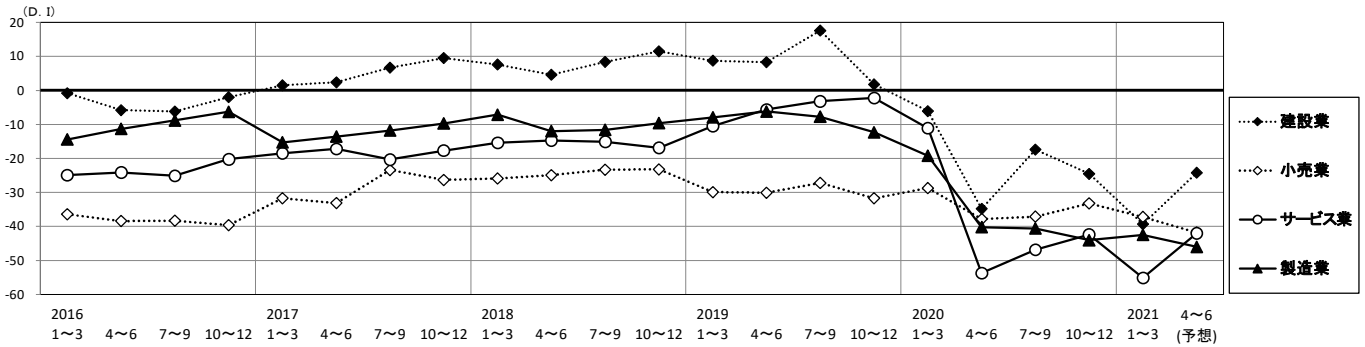
製造業	前期		-44.0	業況DI(Δ44.0→Δ42.5)は前期比1.5ポイント減少し、前期同様の厳しさが続きました。売上額(Δ41.3→Δ45.7)はやや減少傾向を強め、収益(Δ42.6→Δ44.1)は前期並の減益傾向が続きました。 来期の業況(Δ46.0)は悪化傾向がやや強まると見えています。売上額(Δ40.3)は厳しい状況が続くものの、減少傾向が多少弱まり、収益(Δ36.0)も減益傾向がかなり弱まると予想しています。
	今期		-42.5	
	来期		-46.0	

小売業	前期		-33.2	業況DI(Δ33.2→Δ37.2)は悪化傾向がやや強まりました。売上額(Δ37.6→Δ43.6)は減少傾向がかなり強まり、収益(Δ39.6→Δ42.7)も減益傾向が若干強まりました。 来期の業況(Δ41.8)は厳しさが更に増すと予想しています。売上額(Δ46.4)は幾分減少傾向を強め、収益(Δ45.4)も減益傾向が多少強まると予想しています。
	今期		-37.2	
	来期		-41.8	

サービス業	前期		-42.4	業況DI(Δ42.4→Δ55.1)は悪化傾向が再び大きく強まりました。売上額(Δ50.0→Δ51.3)と収益(Δ50.4→Δ50.7)は前期並の減少・減益傾向が続きました。 来期の業況(Δ42.0)は厳しい状況は続くもののかなり持ち直すとしており、売上額(Δ38.9)と収益(Δ42.6)も厳しい状況ながらかなり改善すると予想しています。
	今期		-55.1	
	来期		-42.0	

建設業	前期		-24.5	業況DI(Δ24.5→Δ39.3)は悪化傾向が大きく強まりました。売上額(Δ31.7→Δ38.7)は減少傾向がかなり強まり、収益(Δ37.9→Δ40.2)も減益傾向が多少強まりました。 来期の業況(Δ24.2)はかなり持ち直すとしており、売上額(Δ19.0)と収益(Δ27.4)も減少・減益傾向が大幅に改善すると予想しています。
	今期		-39.3	
	来期		-24.2	

江戸川区の中小企業／業種別景況の推移



〔過去5年間の業況D.I.の推移〕※(D.I.=「増加回答値」-「減少回答値」)

	2016	2016	2016	2016	2017	2017	2017	2017	2018	2018	2018	2018	2019	2019	2019	2019	2020	2020	2020	2020	2021	2021
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
製造業	-14.4	-11.3	-8.8	-6.3	-15.3	-13.6	-11.8	-9.7	-7.1	-12.0	-11.6	-9.6	-7.9	-6.2	-7.7	-12.3	-19.2	-40.2	-40.6	-44.0	-42.5	-46.0
小売業	-36.4	-38.4	-38.3	-39.6	-31.7	-33.1	-23.4	-26.3	-25.9	-24.9	-23.3	-23.2	-29.9	-30.1	-27.2	-31.7	-28.7	-37.8	-37.1	-33.2	-37.2	-41.8
サービス業	-24.9	-24.1	-25.1	-20.2	-18.5	-17.2	-20.3	-17.7	-15.4	-14.7	-15.1	-16.9	-10.5	-5.6	-3.2	-2.2	-11.1	-53.7	-46.8	-42.4	-55.1	-42.0
建設業	-0.8	-5.8	-6.2	-2.0	1.5	2.4	6.7	9.5	7.6	4.6	8.4	11.5	8.7	8.3	17.6	1.8	-6.1	-34.8	-17.4	-24.5	-39.3	-24.2

経営者から寄せられた声 (2021年1~3月)

【景況全般について】

- 1~3月期売上は例年の50%程度まで戻ってきたがまだまだ不十分。個人消費の落ち込みが回復に転じなければ2019年9月水準には程遠いと思われる。失業者は増えていると思われるが募集しても反応が全くない。経営安定の観点から保守点検の分野進出に取り組んでいる。(建設業)
- 春になり、陽気も良く消費動向も改善の兆しが見えてきた。長らくできなかったイベントも緊急事態宣言の解除とともにやっけていこうと思っている。(卸売業、小売業)

【経営上の課題について】

- 公共事業の調査・設計に係わる業種。コロナウイルスによる影響は現在のところ少なく、景気の下支えのためか、景況は全般的に良い。しかし、東京オリンピックや今回のコロナ禍による景況の悪化はしばらくしてから大きくなると予想しており、一般公共事業から災害を対象とした専門性の強化に努めていきたいと思っている。また、テレワークには順応しやすい業態なので、働き方の転換にも取り組んでいる。(サービス業)

【受注・売上・単価・仕事量について】

- 他社競争が激しくなり、利益率が低下。また顧客の設備投資の減少により業績にも影響が出てきている。(卸売業、小売業)
- 発注は回復傾向にあると感じている。(製造業)
- コロナの影響による受講生減で今までにない程の落ち込み。(サービス業)

【経営改善等に向けての取組み】

- 新商品の開発を検討。(製造業)
- コロナ対策として、時短営業、接客用のパネルの設置、アルコール消毒、マスクおよびプラスチック手袋の着用、ソーシャルディスタンス等可能な限りの対策を業界および各社自主的に実施している。(サービス業)

江戸川区の企業倒産動向 (2021年1~3月)

江戸川区の企業倒産動向

2021年1~3月期の江戸川区の倒産件数は、前期比30.0%増の13件(前期10件)、負債総額は前期比51.6%減の4億99百万円(前期10億31百万円)でした。

業種別にみると、件数では“建設業”が4件で最も多く、“卸売業”が3件、“小売業”が2件と続きました。負債総額も“建設業”が2億10百万円で最も多く、次いで“宿泊業、飲食サービス業”が1億20百万円でした。

(単位: 件・百万円)

	前年同期 2020年1~3月		前期 2020年10~12月		今期 2021年1~3月	
	件数	負債総額	件数	負債総額	件数	負債総額
製造業	1	10	0	0	0	0
卸売業	7	1,715	1	10	3	70
小売業	2	36	4	818	2	49
サービス業	3	100	1	30	1	20
建設業	7	183	2	142	4	210
不動産業	1	14	0	0	1	20
情報通信業・運輸業	1	20	0	0	1	10
宿泊業、飲食サービス業	1	20	2	31	1	120
その他	1	100	0	0	0	0
合計	24	2,198	10	1,031	13	499

江戸川区 産業経済部 産業経済課 計画係

TEL:03-5662-9014(直通)